

# 筑豊小児科医会会報

Vol. 182 2022.03



## Contents

- ◇ 今月のトピックス（看護師特定行為研修推進室）
- ◇ 小児科関連勉強会（オンライン配信）のご案内
- ◇ 地域連携ささえあい小児診療（3月の予定表・終了のお知らせ）
- ◇ 飯塚病院 月間診療のまとめ《2021年12月》
- ◇ 研修医のご紹介
- ◇ AI-CAP 通信
- ◇ Pediatrics note（小児科 診療部長 大矢崇志）

発行：飯塚病院小児センター（飯塚市芳雄町 3-83）  
（代表）TEL：0948-22-3800

## 今月のトピックス（看護師特定行為研修推進室）

### ● 看護師特定行為研修について

2015年から「今後の在宅医療等を支えていく看護師を計画的に養成していくこと（厚生労働省,2020）を目的として、「特定行為に係る看護師の研修制度」が開始されました。

特定行為研修とは、看護師が手順書により特定行為を行う場合に特に必要とされる、実践的な理解力・思考力および判断力、ならびに高度かつ専門的な知識・技能の向上を図るものです。カリキュラムは共通科目として「臨床推論」「フィジカルアセスメント」他、加えて区分別科目として21区分38行為の教育内容から構成されています。

当院は2022年4月から特定行為研修指定機関として、現在開講に向けて準備を進めています。開講区分は「術中麻酔管理領域」です。1年後、更なる専門的知識やスキルの研鑽を成した看護師の輩出を心待ちにしているところです。

数年後には、開講内容も新たに付加していく予定です。その上で本来の特定行為研修制度の趣旨を踏まえ、将来的には活躍の場を地域・在宅へと広げていくことも視野に入れております。地域での対象は様々です。成人老年期で学んだ知識・スキルを当然、小児期を対象にとつなげていく機会も多々あると思います。

先般、日本看護協会主催により特定行為看護師の実践報告がありました。PICUでの実践報告でしたが、387件の特定行為実践の成果をもとに、239時間のタスクシフトの実現がなされていました。これにより医師の重複業務の改善、患児の待ち時間減少の成果を提示すると共に、チーム医療の確固たる連携も述べられていました。

当院は2022年4月より開講をめざしており、まだ乳児期というところでしょうか。幼児前期・そして幼児後期へと成長の折には、是非とも筑豊小児科医会の先生方のお力添えを頂きつつ、学童期へと成長を遂げる事ができましたら幸甚に存じます。

何卒今後ともよろしくお願い申し上げます。

## 小児科関連勉強会（オンライン配信）のご案内

### ■ 第334回 筑豊小児科医会勉強会（総会）

● 日 時：2022年3月17日（木）18：30～20：10

➡ 総会 18：30～19：00

➡ 一般演題 19：00～19：15

「当院での小児発達障害に対する診療の一般外来への移行」

飯塚病院 総合診療科 専攻医 橋本彦太郎

➡ 特別講演 19：15～

「そだちと自己肯定感～神経発達症に学ぶ徹底的肯定主義外来～」

糸島こどもとおとなのクリニック こどもの心外来 笠原亜希子 先生

\*総会の参加方法はFAXにて送付いたしました案内状をご確認ください。

\*講演会の視聴方法は添付の案内状をご確認ください。



看護師特定行為研修推進室 スタッフ

## 地域連携ささえあい小児診療

近年、小児科医の不足などにより小児救急医療の確保が危ぶまれる中、飯塚地区・直鞍地区・田川地区の小児科医師が、飯塚病院小児科とスクラムを組んで飯塚病院救命救急センターの夜間小児診療に参加し、筑豊地域小児救急医療の充実を図ろうという取り組みです。

3月		
3/3	木	あざかみこどもクリニック 阿座上 才紀
3/8	火	飯塚市立病院 穂吉 秀隆
3/15	火	ささきこどもクリニック 佐々木 宏和
3/22	火	飯塚市立病院 穂吉 秀隆
3/24	木	いづかこども診療所 牟田 広実
3/29	火	栗原小児科内科クリニック 栗原 潔

月・水・金は頼田病院の医師が担当します。

### ● 地域連携ささえあい小児診療終了のご報告と皆様へのお礼

現在、私たちは厚生労働省が働き方改革関連法を施行開始する 2024 年度にむけて、対策を検討しております。その一つとして 2022 年 3 月末で地域連携ささえあい小児診療（通称ささえあい診療）を、終了させていただき運びとなりました。

ささえあい小児診療は、岩元二郎 前小児科部長が 2006 年 11 月に、夕食をとる時間のない常勤当直医を助けようという目的で、有志医師 18 名に登録していただき開始されました。2008 年 4 月からは準夜帯診療に家庭医と初期臨床研修医の参加が始まり、若手医師にとってベテラン小児科医より直接指導を受けられる他施設にないものとなりました。

これまで、ささえあい小児診療を通して地域の小児医療にご尽力いただいた皆様には、心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

形は変わりますが地域の小児時間外診療におきまして、引き続きご協力賜りますようお願い申し上げます。

地域連携ささえあい小児診療 事務局

小児科部長 岡松由記



## 飯塚病院 月間診療のまとめ 《2021年12月》

- 入院患者数 101人 ●外来患者数 1,115人 ●救命救急センター受診者数 269人
- 新生児センター入院患者数 13人 ●分娩件数 38件 ●手術件数 8件
- 主要疾患数（退院患者数：88人）

痙攣及びてんかん	11	肺炎・気管支炎	8	新生児呼吸障害・心血管障害	7
低出生体重児	7	急性胃腸炎	4	高ビリルビン血症及び黄疸	2
喘息	1	急性上気道感染症	1	その他	47

### ●12月紹介件数

小児科：114件			小児外科：17件			
①	こどもクリニックもりた	8	①	有松病院		2
	ささきこどもクリニック			社会保険田川病院		
③	たなかのぶお小児科	7		田川市保健センター		
	宮嶋医院			田中クリニック		
⑤	平野医院	6		津川診療所		
⑥	松尾ファミリークリニック	5		⑥	あざかみこどもクリニック	
	弥永内科小児科医院		飯塚市保健センター ほか5件			

## 研修医のご紹介

### ● 初期研修医 1年目 ウェイ シュウユ 魏 碩侯

初期研修医 1年目の魏碩侯と申します。

2月28日より5週間、小児科で研修させていただきます。中国の大学を卒業し、長崎大学大学院循環器内科に留学した時に日本の総合診療科に興味を持ち、日本で医師として働きたいと思い医師国家試験をうけました。将来的にプライマリケア外来や在宅医療を行う時に、小児科ローテ中に学ぶことはとても重要であると思っており、しっかり勉強させていただきます。

ご指導・ご鞭撻のほど宜しくお願いします。



### ● 初期研修医 1年目 こけぐちひろき 苔口啓樹

初期研修医 1年目の苔口啓樹と申します。2月21日より6週間、小児科で研修をさせていただきます。

私は救急医療に興味があり、将来は成人から小児まで幅広く診療できる救急医になりたいと考えております。

小児の診療についてまだまだ分からないこと、知らないことが多く、6週間で少しでもたくさんのお話を吸収していきたいと考えています。

よろしくお願い致します！





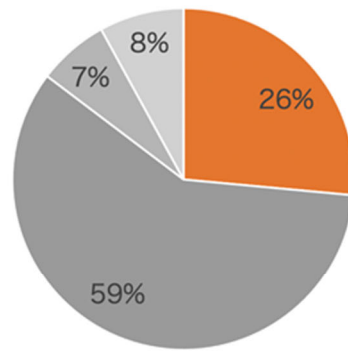
## 子ども虐待とDV

DV（ドメスティック・バイオレンス）については、子ども虐待との密接な関係が指摘されています。近年の子ども虐待死亡事例等を受け、DV防止法の改正により、児童相談所と配偶者暴力相談支援センター等との連携協力が明記されました（2020年4月1日施行）。

1年前に飯塚市で発生しました3児童死亡事例におきましても、DV問題に目を向けることの重要性が検証報告書で示されています。DVがある家庭では、子どもへの直接的な身体的暴力や、DVの目撃が虐待にあたることは言うまでもなく、家族の機能や子どもに深刻な影響を及ぼすことが知られています。

### 配偶者から暴力の被害を受けたことがある家庭の約3割は 子どもの被害もみられる

子どもの被害経験の有無



■ あった ■ まったくない ■ わからない ■ 無回答

内閣府「男女間における暴力に関する調査」（令和3年3月公表）

### DVが子どもに与える影響

#### DVのある家庭で育つ子どもが体験すること

子どもはDVに気づいている  
(見ている、聞いている、感じている)

子どもはDVは自分のせいだと思っ  
ている

子どもは経験していることを  
子どもなりに解釈している

子どもはDVのことを話したいけれど  
話せないと思っている

行動への影響

感情への影響

認知への影響

価値観への影響

その気づきのためには、関係機関がDVについて理解することが必要です。DVの把握に努めるとともに、家族全体を包括したアセスメントや支援を念頭に対応することが求められます。

小児虐待防止委員会 委員長 田中 祥一郎

<AI-CAP 事務局へのお問い合わせ> TEL : 0948-88-8220 (直通) FAX : 0948-88-2806

## Pediatrics note (小児科 診療部長 大矢崇志)

小児科には受診の理由がわからずに病院にくる子がいます。

例えば、意識障害のある痙攣を起こす“てんかん”の子は知らないうちに痙攣するので自分で発作に気づけません。“注意欠如多動症”の子は自分の行動が他の子とどう違うのか自分ではわかりません。

彼らは病院に連れて来られ、身に覚えのないことをお母さんが知らないおじさん(私)に話すのをみて困惑します。内容によっては恥ずかしくて話してほしくない場合もあるので、抵抗する子や泣きそうになる子もいます。子どもたちへの配慮が足りない故の出来事ですが、うまく配慮するにはどうしたら良いのでしょうか。

私は目の前の子がどんな風に世界を感じているか想像してみます。どう考えているか、思っているかではなく、どう感じているか。その昔、釈迦は人間について聞かれた時に、五蘊(ごうん:色、受、想、行、識)であると答えました。『色』とは形あるもの、周りにあるもの全てを指し、それらを『受』けて(感じて)、想、行、識と続きます。詳細はお坊さんに聞いていただくとして、始まりが「感じる」ことなのは今も昔も同じです。しかし、子どもたちの感じ方が私の想像のはるか上をいくことは少なくありません。

私と10年以上付き合いのある視覚障害のある男の子がいます。彼はなんでも聞いて覚えることができ、受診のたびに私も気づかない診察室の変化を教えてくれたり、バスセンターのアナウンスを全て聞き分けて時刻表を見なくても正確にバスに乗ったりしていました。そんな彼が高校生生の時に短期留学で訪れたヨーロッパのある国の様子を話してくれた際、「街には川が流れていて、そのほとりにある緑がとても綺麗でした」と教えてくれたのには驚かされました。きっと彼には鮮やかな緑が見えたのでしょう。豊かな感覚の世界です。

人の感じ方を想像することは人を思いやることの始まりです(←小学校の先生みたい)。皆さんもやってみてください。

最新の情報は 飯塚病院ホームページよりご覧ください。

また、小児科・小児外科の詳しいご紹介や診療実績は「診療科のご紹介」をご覧ください。

外来担当表



小児科のご紹介



小児外科のご紹介

